

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA ふじのくににせかい演劇祭 2019

会期：2019年4月27日(土)～5月6日(月・休)

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

全ラインナップ プレスリリース



演劇祭ガイドパンフレットビジュアル

『マダム・ボルジア』出演：美加理（SPAC）©加藤孝

[ふじのくににせかい演劇祭 2019]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

助成：平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

ふじのくに芸術祭共催事業

[ふじのくに野外芸術フェスタ 2019]

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

共催：静岡市

■SPAC「ふじのくににせかい演劇祭 2019」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

20年目の演劇祭

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、ゴールデンウィークの2019年4月27日(土)から5月6日(月・休)にかけて、「ふじのくににせかい演劇祭」を開催いたします。2000年に「Shizuoka 春の芸術祭」としてスタートした演劇祭は、今回で開催20回目を迎えます。地域に根差し世界とつながる、「静岡をあげての演劇祭」をさらに発展させていきます。

世界の“今”と出会う

今年も世界の演劇シーンをリードする演出家や演劇人が静岡に一堂に会し、日本初演となる作品を上演します。静岡芸術劇場では、今世界的に注目される「ヌーヴォー・シルク」の旗手、フランスのヨアン・ブルジョワ初来日作品が演劇祭のオープニングを飾ります。スコットランドからは“インクルーシビリティ（包括性）”をテーマにしたヒットミュージカル、イタリアから演劇祭3度目の登場となるピッポ・デルポーノの集大成とも言える日本初演作が続きます。注目の宮城作品は2つの野外劇。駿府城公園での新作『マダム・ポルジア』と、野外劇場「有度」で人気作『ふたりの女』の再々演がごぞいます。また「椿円堂」では韓国から初来日となるイム・ヒョンテクの代表作、さらに演劇の手法で現実を照射するミロ・ラウのドキュメンタリー映画の日本初上映もごぞいます。

ON STAGE SHIZUOKA

静岡はフェスティバルの街！ 同時開催されるストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」もさらにパワーアップし、日本各地そして海外から様々なジャンルのアーティストたちが静岡に集結します。「まち」と「パフォーマンス」が一体となり、新緑のSHIZUOKAを彩ります。

■ 「ふじのくににせかい演劇祭」とは

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、1999年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第2回シアター・オリンピック」の成功を受けて、2000年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPACが活動15年目を迎えた2011年からは、名称を「ふじのくににせかい演劇祭」と改め、新たなスタートを切りました。「ふじのくににせかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通して、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する—そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくににせかい）」を理念としています。

■ SPAC（Shizuoka Performing Arts Center）

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center: SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。



● 宮城聡(みやぎ・さとし) SPAC 芸術総監督 プロフィール

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。17年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として

法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



SPAC芸術総監督 宮城 聡

今の世の中、「負の感情」が無敵になってしまいました。たとえばあるコミュニティで「カワイソウだ」という感情が多くのメンバーで共有されるとき、その「カワイソウだ」に同調しないメンバーは、まるで冷血な人非人のようにみなされてしまいます。「こんなひどいことをするなんて許せない」という感情が多数派になると、「許せない」という強い感情が正当化されて、「許せないと思わない人間は仲間じゃない」となってしまいます。

感情というものは、人間にとってやっかいなものです。いくら論理でものを考えていても、感情は、論理とは別の軸に存在し続けます。論理で考えれば感情が抑制される、とはとても言えないのです。特に「負の感情」が自分の中に沸き起こったとき、論理的思考でそれを押しとどめることはほぼ不可能ではないでしょうか。たとえば「嫉妬」を、論理的に考えたら愚かな判断だとわかったのでやめました、という人はまずいないだろうと思います。

つまり、感情というものに対しては、「その感情は正しくない」と言うことができないんですね。負の感情を「抱かないようにする」ことができる人間はほとんどいないからです。

その上、負の感情は容易に伝染します。人々は負の感情によって強く結束します。

それゆえ、ひとたび社会を動かす原理として負の感情を前面に出してしまったら、それはコントロール不能に

なり社会が乱れる、だからなるべく負の感情を他者の前で隠しておこう、という知恵を人類は蓄積してきたはずです。

しかし今や、世界中の政治家が人々の負の感情を煽り、それを利用するようになりました。「ポピュリズムとか言われても、結果として既得権層が壊せるなら、つまり世直しができるなら、それは正しいはずだ」と彼らは考えるのでしょうか。

でも負の感情が野放図に解き放たれた世界は、「同じ感情を感じていない人間を許容しない」社会です。そういう社会に暮らす者は、自己防御のために、いつのまにか周囲と同じことを感じるようになります。そうして巨大な塊となった負の感情は、最終的には暴力として発散されることになります。

人間が負の感情を克服できない以上、せめて暴力として発散されることのないように、と人類が生み出した工夫のひとつが演劇やダンスです。

目前で「激情に駆られた」人間の行為を見ることで、人は、実世界では抑制すべき暴力が舞台上で跳梁跋扈することの快感を味わいつつも、感情というものの「始末におえなさ」に思いを致します。

なにしろ優れた作品とは、感情というものに客観的な形を与えることにほかならないのですから。

とある負の感情が多数派になったとき、さあ青信号だ、行っちゃえ、となりがちな人類は、一方でこうした制御装置を開発してきたんですね。

ふじのくに ⇄ せかい演劇祭 2019 全上演ラインナップ

●演劇祭で上演される全7作品をご紹介します。詳細は次ページ以降をご覧ください。

駿府城公園

SPAC 新作 演劇 <<<静岡 〔ふじのくに野外芸術フェスタ 2019〕

マダム・ボルジア

5月2日(木・休)、3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)

構成・演出：宮城聡 / 作：ヴィクトル・ユゴー / 出演：SPAC

舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演劇 <<<静岡

ふたりの女 平成版 ふたりの面妖があなたに絡む

4月27日(土)、28日(日)

演出：宮城聡 / 作：唐十郎 / 出演：SPAC

静岡芸術劇場

日本初演 演劇・ダンス・サーカス <<<パリ

アート・オブ・サーカス Scala-夢幻階段

4月27日(土)、28日(日)、29日(月・祝)

コンセプト・演出・舞台美術：ヨアン・ブルジョワ

日本初演 ミュージカル <<<グラスゴー

ミュージカル マイ・レストライトフット

5月2日(木・休)、3日(金・祝)

演出・作：ロバート・ソフトリー・ゲイル

日本初演 演劇 <<<モデナ

歓喜の詩

5月5日(日・祝)、6日(月・休)

構成・演出：ピッポ・デルポーノ

舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

日本初演 演劇 <<<ソウル

メディアともう一人のわたし

4月27日(土)、28日(日)、29日(月・祝)

翻案・演出：イム・ヒョンテク / 原作：エウリピデス

グランシップ 映像ホール

日本初上映 ドキュメンタリー映画 <<<ドイツ・スイス

〈ドキュメンタリー映画〉コンゴ裁判 ～演劇だから語り得た真実～

4月27日(土)、28日(日)

脚本・監督：ミロ・ラウ

SPAC 新作 演劇 <<<静岡 ぶじのくに野外芸術フェスタ 2019

マダム・ボルジア

5月2日(木・休)、3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)

各日 18:45 開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場

構成・演出：宮城聡 作：ヴィクトル・ユゴー 訳・翻案：芳野まい

音楽：棚川寛子 振付：太田垣悠 照明デザイン：大迫浩二

衣裳デザイン：駒井由美子 小道具デザイン：深澤襟 ヘアメイク：梶田キョウコ

出演：SPAC/美加理、阿部一徳、大内米治、大高浩一、片岡佐知子、加藤幸夫、河村若菜
貴島豪、黒須芯、小長谷勝彦、鈴木真理子、関根淳子、大道無門優也、ながいさやこ
布施安寿香、牧山祐大、宮城嶋遥加、森山冬子、山本実幸、吉植荘一郎

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

[全席自由] 上演時間：未定(120分以内) 日本語上演/英語字幕

◎プレトーク：各回、開演35分前より(フェスティバル gardenにて)



『マダム・ボルジア』イメージビジュアル ©加藤孝

宮城聡×SPACの新たな野外劇、まさに誕生の刻！
戦国の乱世を生きる悪女が、今宵、炎上する――

男たちの陰謀と嫉妬、渦巻く憎悪に翻弄されながらしたたかに生きる女――。ルネサンス期のイタリアに実在し、かのヴィクトル・ユゴーが描いた稀代の悪女、ルクレツィア・ボルジア。人を殺めることも厭わない鬼女の顔に、生き別れた息子を想う母の情愛が見え隠れし…。オペラでも知られるルクレツィアの物語を、宮城は大胆にも同時期の日本、すなわち戦国時代後期に置き替えます。舞台は駿府城公園、群雄割拠の戦乱を逞しく生きる男たちは時にきらびやかに着飾り、風流踊りに興じます。華やぐ空気の裏で陰謀はめぐり、手に汗握る修羅場が次なる修羅場を呼び、愛憎の底へと燃え堕ちていく…。祝祭音楽が彩る痛快スペクタクル、SPACの新作野外劇にどうぞご期待ください。

演劇 <<<静岡

ふたりの女 平成版 ふたりの面妖があなたに絡む

4月27日(土)、28日(日)

各日 18:00 開演

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演出：宮城聡 作：唐十郎

出演：SPAC/たきいみき、石井萌水、奥野晃士、春日井一平、木内琴子
武石守正、館野百代、永井健二、三島景太、吉見亮、若宮羊市

[全席自由] 上演時間：80分 日本語上演/英語字幕

◎開幕式：4月27日(土) 17:15~17:30 (呈茶サービスあり)



アングラ・小劇場演劇へのオマージュが炸裂する
宮城聡×SPACの人気野外劇、待望の再々演！

1960年代アングラ・小劇場演劇シーンを象徴する劇作家・演出家、唐十郎。その戯曲には猥雑さをない交ぜにした時代のエネルギーが凝縮され、詩的・音楽的なセリフ群は輝きを放ち続けています。戯曲『ふたりの女』は、『源氏物語』の光源氏と妻・葵上、生霊となった六条御息所の三角関係に、狂気と正気の境界を描くチェーホフの『六号室』を巧みに織り込んだ傑作。世界の演劇シーンで確固たる存在感を示す宮城聡が、極小空間での伝説的初演を深くリスペクトしつつ、その演出術を縦横無尽に駆使し、唐戯曲を日本平の古代の森の野外空間へと解き放ちます。2009年の初演時から大入り満員を続けるSPAC野外劇のテッパン、待望の再々演となります。

唐十郎 KARA Juro

1940年東京生まれ。明治大学文学部演劇学科卒業。63年「劇団状況劇場」を旗揚げ。実験精神と独自性に富む街頭での野外劇を試みるなど、小劇場運動の先陣を切った。67年新宿花園神社に初めて紅テントを建て『腰巻お仙』を上演。以後テント公演を中心に活動、海外公演も行う。70年『少女仮面』で岸田國士戯曲賞、82年『佐川君からの手紙』で芥川賞など受賞歴多数。88年「劇団唐組」を結成。劇団を率い、現在までほぼ年2回のペースで新作上演を続けている。また、ドラマ、CM出演等、俳優としての活躍は演劇、映画にとどまらない。

日本初演 演劇・ダンス・サーカス <<<パリ

アート・オブ・サーカス

Scala - 夢幻階段

4月27日(土)・28日(日) 13:00 開演、29日(月・祝) 13:30 開演

会場：静岡芸術劇場

コンセプト・演出・舞台美術：ヨアン・ブルジョワ

アーティスティック・アシスタント：津川友利江

出演：メヘディ・パキ、ヴァレリー・ドゥセ、ダミアン・ドゥロワン、オリヴィエ・マチュー
エミリアン・ジャンヌトー、フロランス・ペイラール、ルカ・ストゥルナ

製作：ラ・スカラ・パリ - レ・プティット・ズール

[全席指定] 上演時間：60分

◎プレトーク：各回、開演 25 分前より

◎アーティストトーク：4/29(月・祝)終演後

「ヌーヴォー・シルク」の旗手、待望の初来日公演！！

そびえ立つ階段、宙に身を投げる男。しかし次の瞬間、時計を逆回しするかのごとく身体はステップに舞い戻る。まるでエッシャーのだまし絵のように現象は歪み、無限にループしていく。今世界中で「サーカス」をバックグラウンドに持つアーティストに熱い視線が向けられ、中でもヨアン・ブルジョワは重力や錯覚を操るマジカルな空間演出でひととき注目を集めています。パリ・パンテオン廟で、回転する螺旋階段やトランポリン、巨大振り子を用いたパフォーマンス動画は日本でも話題になったばかりです。2018 年秋にパリ・スカラ劇場で初演された本作、「Scala」はイタリア語で「階段」の意味も持ちます。ヨアン・ブルジョワ待望の初来日。アクロバット・アーティストの驚異的な身体が生む異次元空間を体験しない手はありません。

●出演者によるワークショップ：4月28日(日)10:00～11:30 (静岡芸術劇場リハーサル室にて)



©Géraldine Aresteanu



©Géraldine Aresteanu

ヨアン・ブルジョワ

ジャグラー・俳優・ダンサー・演出家。フランス東部ジュラ県の小さな村で育つ。シャロン＝アン＝シャンパーニュの国立サーカス芸術センター、アンジェ国立コンテンポラリーダンスセンターを卒業後、リユール＝ラ＝バブ国立振付センターや、カンパニー・マギー・マランなどで様々な作品に出演する。2010 年よりサーカス、コンテンポラリーダンスそして演劇を融合した独自の作品創作を開始。パリのパンテオン廟でのパフォーマンス動画は、世界的に話題となる。18 年 10 月に、パリ・スカラ劇場のリニューアルオープン作品として『Scala』を発表、現在フランス各地をツアーしている。16 年よりグルノーブル国立振付センターの芸術監督を、振付家ラシッド・ウランタンとともに務める。

日本初演 ミュージカル <<<グラスゴー

ミュージカル マイ・レフトフット

5月2日(木・休) 14:30 開演、3日(金・祝) 13:30 開演

会場：静岡芸術劇場

作・演出：ロバート・ソフトリー・ゲイル

作詞・作曲：クリア・マッケンジー、スコット・ギルモア、リチャード・トーマス

出演：リチャード・コンロン、マシュー・ダケット、ナタリー・マクドナルド
ルイズ・マッカーシー、ジョン・マクラーノン、ドーン・シーヴライト
ゲイル・ワトソン、ギャビン・ホイットワース

製作：バーズ・オブ・パラダイス・シアターカンパニー

ナショナルシアター・オブ・スコットランド

後援：プリティッシュ・カウンシル

[全席指定] 上演時間：95分 英語上演／日本語字幕

◎プレトーク：各回、開演 25 分前より



© Tommy Ga-Ken Wan



© Eoin Carey

ロバート・ソフトリー・ゲイル

俳優・パフォーマーとして多くの作品に出演するとともに、作家、演出家、障がい者権利活動家として高く評価されている。出演作『Girl X』(ナショナルシアター・オブ・スコットランド)では、ベルギーの演出家との共作も行うなど独自の活動を展開。2013 年のソロパフォーマンス『If These Spasms Could Speak (もしこの痙攣が話せるのなら)』はスコットランドで大ヒットし、ブラジル・エストニア・アイルランド・インド・アメリカなどで上演される。12 年より障がいのあるアーティストと障がいを持たないアーティスト、そして主要な劇場・劇団との共同製作を推進する劇団バーズ・オブ・パラダイス (BOP) の芸術監督を務める。ナショナルシアター・オブ・スコットランド理事。

共に生きる今を歌う、スコットランド発のヒットミュージカル！

スコットランドから底抜けに明るいミュージカルが演劇祭に登場！ 舞台はアマチュア劇団の稽古場、「次のテーマは“インクルーシビティ (包括性)”にしよう！」と彼らが目を付けたのは、映画『マイ・レフトフット』の舞台化でした。左足だけで表現する脳性まひの画家/作家の半生、そして主演の名演技がオスカーに輝いた名作。主役は経験豊富な俳優に、そして劇団スタッフで脳性まひのクリスにアドバイスをもらって・・・と構想は進みますが、とんだ行き違いで稽古場は大混乱？！ 障がい者を「演じる」こととは？「インクルーシビティ」とは？ 自らも脳性まひである演出家のソフトリー・ゲイルがブラックユーモアも交えながら観客に問いかけ、パワフルな俳優たちが共に生きる今を豪快に歌いあげます。

●シンポジウム：「クリエイティブ・アクセシビリティについて考える」5/2(木・休)劇場カフェ・シンデレラ

■SPAC「ふじのくにこせかい演劇祭 2019」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

日本初演 演劇 <<<モデナ

うた 歓喜の詩

5月5日(日・祝)、6日(月・休) 各日 13:00 開演

構成・演出：ビッポ・デルポーノ

花構成：ティエリ・ブテミ

音楽：ビッポ・デルポーノ、アントワーヌ・パタイユ、ニコラ・トスカノほか

出演：ドリー・アルベルティン、ジャンルーカ・バッラレー、マルゲリータ・クレメンテ
ビッポ・デルポーノ、イラーリア・ディスタンテ、シモーネ・ゴッジャーノ
マリオ・イントルリオ、ネルソン・ラリッチャ、ジャンニ・パレンティ
ベベ・ロブレド、ザクリア・サフィ、グラツィア・スピネッラ

製作：エミリア・ロマーニャ演劇財団

共同製作：リエージュ劇場、ル・マネージュ-モブージュ国立劇場

[全席指定] 上演時間：100分 イタリア語上演/日本語字幕

◎プレトーク：各回、開演 25 分前より

◎アーティストトーク：5/6(月・休)終演後

どんなに苦しい人生の道のりにも、幸せの花は咲く

劇空間を生む詩人そして映画人として、ヨーロッパでも特筆されるアーティスト、ビッポ・デルポーノ。これは彼が、それぞれに困難を抱えるかけがえのないパートナーたちと 20 年以上にわたり共に歩んできた道程の振り返りであり、最後のランドマークとも言える作品です。何もない空間を満たす詩の言葉、不思議な人々、サーカスのパレード。そして世界的に活躍するフラワーアーティスト、ティエリ・ブテミによる喜びの花々が舞台に咲き誇り、暖かな光が孤独と狂気に囚われた男の心を解きほぐしていきます。明滅の中に投げ込まれたイメージの数々は、まるでフェリーニの映画を見ているかのように観客の記憶やささやかな幸福を呼び覚まします。誰しもの人生に咲く花々、その存在を謳う珠玉の賛歌です。



ビッポ・デルポーノ

1959 年イタリア・ヴァラツェ生まれ。演出家、劇作家、俳優。80 年代にビッポ・デルポーノ・カンパニーを立ち上げ、87 年に『暗殺者の時』を発表、ヨーロッパや南米を中心に 300 回に渡る上演を重ねる。90 年にはピナ・バウシュとのコラボレーションも行なう。97 年アヴェルサ精神病院で行ったワークショップをもとに、障害者、ホームレスの人々と『浮浪者たち』を制作。以後このメンバーの多くが劇団の一員として活動を続ける。人間の生を鋭く見つめ詩的に描く作品で高く評価され、アヴィニオン演劇祭、ウィーン芸術週間、ヴェネツィア・ビエンナーレ等で上演。2018 年秋にはパリ・ポンピドゥーセンターで回顧展が行われた。静岡では 07 年『戦争』と『沈黙』、17 年『六月物語』を上演。

日本初演 演劇 <<<ソウル

メディアともう一人のわたし

4月27日(土)・28日(日) 15:30 開演、29日(月・祝) 16:30 開演

会場：舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

翻訳・演出：イム・ヒョンテク / 原作：エウリピデス

出演：イ・チェギョン、イ・ソン、ジョン・ウイウク、キム・チュンゲン、イ・スヨン
イ・ミスク、ベク・ユジン、キム・ミンジョン、キム・ヘミ、ユン・ギョンロ

製作：ソウル・ファクトリー 助成：韓国文化芸術委員会

[全席自由] 上演時間：80分 韓国語上演/日本語字幕

◎プレトーク：各回、開演 25 分前より

◎アーティストトーク：4/29(月・祝)終演後

韓国演劇の真骨頂！ソウルフルに迫りくる“等身大のメディア”

韓国演劇界の旗手イム・ヒョンテクが、ギリシア悲劇『王女メディア』を情感豊かな韓国歌舞劇に仕立て上げました。伝統芸能パンソリの歌や太鼓が響き、動きにはダイナミックな武術の所作が盛り込まれ、情趣あふれる空気をまといまします。イムは“嫉妬に狂う苛烈な女性メディア”とその内側に潜む“もう一人のメディア”を舞台に現出させ、憎しみと愛情の狭間で引き裂かれる心の葛藤を解きほぐしていきます。エネルギッシュな俳優たちにより、喜怒哀楽のすべてが実に生き生きと表現され、観客はそこに自分と重ね合わせられる「等身大のメディア」を発見することでしょう。海外でも再演を重ねる代表作で、ソウル・ファクトリー日本初上陸となります。



イム・ヒョンテク

ソウル生まれ、劇団ソウル・ファクトリー芸術監督、ソウル芸術大学教授。ニューヨーク・コロンビア大学にてアンドレイ・セルパン、アン・ボガート両氏に師事。1994 年、同大学出身の演出家を中心としたカンパニー-LITE を設立し、舞台と映画の両方で演出・出演を続けヨーロッパでも公演を行う。2000 年から拠点をソウルに移し、『真夏の夜の夢』での伝統と現代ならびに東西の美学を独自に融合させた演出により、一躍国内でも認められる。『メディアともう一人のわたし』で、07 年第 19 回カイロ国際実験演劇祭最優秀演出賞を受賞。18 年韓国・平昌オリンピックの文化プログラムにおいて、日韓共同制作『ハムレット・アバター』を演出。

日本初上映 ドキュメンタリー映画 <<<ドイツ・スイス

〈ドキュメンタリー映画〉

コンゴ裁判 ～演劇だから語り得た真実～

4月27日(土)、28日(日) 各日 15:00 開演

会場：グランシップ 映像ホール

脚本・監督：ミロ・ラウ

製作：フルーツマーケット、ラング・フィルム

共同製作：IIPM - International Institute of Political Murder
SRF, SRG SSR, ZDF/ARTE

[全席自由] 上演時間：100分 フランス語上演／日本語・英語字幕

◎プレトーク：各回、上演冒頭

悲劇の現場でのかつてない演劇実験、
現実を突き動かす奇跡の記録。

約20年にわたり600万人以上の死者を出し、第3次世界大戦とも言われるコンゴ戦争。レアメタルをめぐる経済戦争は電子機器を扱う私たちの生活にも密接に関わり、現地では今も虐殺や民族紛争が続いているにも関わらず、世界に報道される機会は極めて少ないのが現状です。そして起きた犯罪の多くは真相が解明されることも、加害者が裁かれることもありません。この過酷な現実に「演劇」で風穴を開けたのが、スイス人演出家ミロ・ラウでした。彼は現地で模擬法廷を立ち上げ、人々に「演劇に参加してほしい」と呼びかけたのです。事件当事者、州知事や内務大臣、国際鉱山会社の弁護士、またハーグ国際刑事裁判所判事や地元の人権派判事らがこれに応じ、裁判はコンゴ東部、そしてベルリンでも行われました。判決に法的拘束力はありませんが、このドキュメンタリー映画はその後コンゴ各地で上映され、実際に法廷を設置する動きが生まれています。前作『Hate Radio』で、ルワンダ虐殺を扇動したラジオ放送を舞台上に完全再現したラウ、演劇という手法を用いたドキュメンタリー映画『コンゴ裁判』が再び世界に衝撃を与えています。



ミロ・ラウ Milo RAU

1977年、スイス・ベルン生まれ。演出家、劇作家、ジャーナリスト、エッセイスト、研究者、コンセプチュアル・アーティスト、映画制作者として活動し、多彩な才能を発揮している。2002年以降、演劇、映画、書籍など50以上の作品を発表、その創作は主要な国際フェスティバルをはじめ世界30ヶ国以上で紹介されている。07年に「インターナショナル・インスティテュート・オブ・ポリティカル・マダー（IIPM）」を創立。演劇やファインアート、映画など様々な手法で政治的犯罪を考察する作品を発表する。「ふじのくにこせかい演劇祭」では13年に『Hate Radio』を上演。現在、NTヘント（ベルギーの公立劇場）の2018/2019シーズンのディレクターを務める。

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

静岡市「まちは劇場」プロジェクト

5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)、6日(月・休)
各日 12:00～18:00

会場：静岡市街地（駿府城公園、静岡市役所・葵区役所など）

予約不要・参加無料

演劇祭のもう一つの顔、ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」。静岡の街が劇場になる。いつもの街を劇場に変える、演劇とダンスなどが街にあふれ出すパフォーミングアーツの祭典です。静岡市「まちは劇場」プロジェクトの一環として無料でパフォーマンスをご覧いただけるイベント。驚きも、笑いも、感動も、オープンエアな環境だからこそ得られる体験です。

【出演予定アーティスト】＊第一弾発表

ままごと × 康本雅子 / 梅棒 / BATIK / 範宙遊泳 / 口口
山田うん / FUKAIPRODUCE 羽衣 / ホナガヨウコ企画
KPR/開幕ペナントレース / 川村美紀子 / いいむろなおき
壱劇屋 / オイスターズ / 劇団こふく劇場 / ブルーエゴナク
カゲヤマ气象台 / 劇団 短距離男道ミサイル / 渡邊尚（頭と口）
突劇金魚 / Mt.Fuji / …and more!

【詳細は公式サイト、公式 SNS で随時公開！】

www.strangeseed.info



@SSTFstrangeseed



@shizuoka.strangeseed

プログラムディレクター：ウォーリー木下

運営・制作：佐和ぐりこ、若林康人、高橋ゆうき、渡辺亮史、蔭山ひさ枝、甲賀雅章、菅井一輝 広報：森隆一郎

アートディレクター：山口良太 イラスト：しりあがり寿 コンセプト：甲賀雅章

主催：静岡市 共催：SPAC-静岡県舞台芸術センター



そのほかの関連企画

◎しりあがり寿 presents ずらナイト

静岡出身の漫画家・しりあがり寿がホストとなり、ゲストと夜な夜な繰り広げる脱力系しゃべり場。静岡、演劇、カルチャー、なんでもあり。静岡のナイトライフはここに決まり！

5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)、6日(月・休)
各日 19:00～23:00

会場：ガーデンカフェ・ライフタイム

入場無料（要1ドリンクオーダー）

主催：静岡市 協力：徳川慶喜公屋敷跡 浮月楼



©しりあがり寿

◎広場トーク in フェスティバル garden

駿府城公園の開放的な空気のもと、宮城聡とアーティスト・論客たちが自由に語り合うトークイベントです。

※登壇者・トークテーマは決定次第 特設サイトにて発表いたします。

5月4日(土・祝) 16:20～17:20 会場：フェスティバル garden

予約不要・無料



©Y. Inokuma

◎開幕式

4月27日(土) 17:15～17:30 野外劇場「有度」前広場にて

草薙ソアグループによる呈茶サービスもございます。

◎お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園

富士山をバックに、お茶摘み体験！ お茶どころ・静岡ならではの楽しみです。

4月29日(月・祝) 9:00～12:00 ※雨天中止

静岡舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」前 集合

参加費：一般 700円、高校生以下 500円、未就学児無料

要予約



◎フェスティバル bar (舞台芸術公園)

◎フェスティバル garden (駿府城公園)

観客とアーティストの出会いの場。静岡の美味しいものを味わいながら、気軽に語り合うことができる演劇祭のコミュニティスペースです。

◎フェスティバル bar

日時：4月27日(土)、28日(日) 各日 16:30～22:00

会場：舞台芸術公園「カチカチ山」

◎フェスティバル garden

日時：5月2日(木・休)、3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝) 各日 11:00～18:30

会場：駿府城公園 東御門前広場

プロデューサー：スノドカフェ代表 柚木康裕



©HIRAO Masashi

“泊まって味わうディープな静岡”

◎みんなの nedoco プロジェクト

毎年大好評！ まちの集会所やお寺が期間限定のゲストハウス「nedoco (ネドコ)」に。日帰りでは味わえないディープな静岡を体験していただける滞在型イベントです。

～予定されている nedoco とオープン日～

- 4月27日 nedoco@富士山の見える丘－池田
- 4月28日 nedoco@街の真ん中－教覚寺
- 5月2日 nedoco@文教のまち－草薙
- 5月3日, 4日 nedoco@歴史あるお寺－洞慶院

3月10日(日) 受付開始！

参加費 (1泊2日)：4,000円

【詳細・お申し込み】 www.shizuoka-orchestra.com/nedoco/

【Facebook ページも更新中】 www.facebook.com/nedoco

▶「贈り nedoco」を利用すれば参加費が無料に！舞台芸術を愛する若者を応援するしくみです。詳細はWEB サイトにて。

企画・運営：シズオカオーケストラ



チケット情報

SPAC の会会員先行予約開始 3月3日(日) / 一般前売開始 3月10日(日)

全演目パスポート 限定数発売

全作品を観劇できる超お得なパスポート。演劇祭を楽しみ尽くすにはこれが一番！

一般：13,000円 / SPAC の会会員：11,000円

※パスポートのご利用は、1演目につき1回、ご本人様に限りさせていただきます。※パスポート購入後、ご観劇希望の演目を各公演前日までに
お電話もしくは窓口にてご予約ください。(ご希望の公演が満席の場合はご予約いただけません。どうぞお早めにお申し込みください。)

一般	4,100円
ペア割引	3,600円 (2名様で1枚につき)
グループ割引	3,200円 (3名様以上で1枚につき)
ゆうゆう割引	3,400円 [満60歳以上の方] ※公演当日、年齢のわかる身分証をご提示ください。
学割	2,000円 [大学生・専門学校生] 1,000円 [高校生以下] ※公演当日、学生証をご提示ください。
障がい者割引	2,800円 [障害者手帳をお持ちの方] ※付添の方(1名様)は無料。 ※各種割引を組み合わせるのご利用はできません。 ※割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。 ※全演目パスポート、障がい者割引、10名様以上でのご予約については、電話・窓口のみでのお取り扱いになります。

◆『コンゴ裁判』

一般 1,000円 学割 500円 [大学生以下]

チケット購入方法

電話予約 SPAC チケットセンター TEL：054-202-3399 (受付時間 10:00～18:00)

ウェブ予約 www.festival-shizuoka.jp

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター (受付時間 10:00～18:00)

セブン-イレブンでの販売 店内のマルチコピー機をご利用ください。

※チケットのご予約受付は公演前日の18時までとなります。

当日券 残席がある場合のみ、開演1時間前より各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくは演劇祭特設サイトでお確かめください。

アクセス

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場 / グランシップ映像ホール (静岡市駿河区東静岡2丁目3-1)

JR「東静岡駅」南口から徒歩約5分。

電車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線(沼津・熱海方面、上り)で約3分。

※1時間に5～6本、10～15分間隔で運行しています。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。

※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢 100-1）

バス 無料チャーターバスをご利用ください。

※舞台芸術公園バスロータリーから各劇場へは徒歩 5～10 分です。

自家用車 ◎東名高速道路清水 I.C.から車で約 30 分、静岡 I.C.から約 30 分、静岡バイパス千代田上土 I.C.から約 25 分。
◎日本平動物園より日本平方面へ 1.8 キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。

お願い 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車でお越しのお客様は、
グランシップ一般駐車場等に駐車の上、無料チャーターバスのご利用をおすすめいたします。

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園 1-1）

静岡市民文化会館（静岡市葵区駿府町 2-90）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 20 分。

◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 15 分。

バス ◎しずてつジャストライン「市民文化会館入口」停留所下車、徒歩約 8 分。

※JR「静岡駅」北口 5 番または 6 番乗場から約 7 分（運賃 100 円、5～10 分間隔で運行しています）

自家用車 ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

静岡市役所・葵区役所（静岡市葵区追手町 5-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 20 分。

◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 15 分。

ガーデンカフェ・ライフタイム（静岡市葵区紺屋町 11-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 3 分。

お問い合わせ

SPAC チケットセンター **054-202-3399**（10:00～18:00／休業日を除く）

◆「ふじのくにこせかい演劇祭 2019」の最新情報は・・・
プレスリリース、[SPAC 公式サイト](#)、[演劇祭 2019 特設サイト](#)にて、随時お知らせいたします。

SPAC 公式サイト <http://www.spac.or.jp>

演劇祭特設サイト <http://www.festival-shizuoka.jp>

SPAC - 静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1

TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場）／FAX：054-203-5732

<http://www.spac.or.jp> E-mail：mail@spac.or.jp

広報担当：内田稔子(uchida@spac.or.jp) 坂本彩子(sakamoto@spac.or.jp)

計見葵(keimi@spac.or.jp) 西村藍(nishimura@spac.or.jp)